

各拠点病院が取り組んでいるがん対策（2026年度） 那覇市立病院

1.がんの予防

①生活習慣(喫煙) ②生活習慣(飲酒) ③感染症対策(HPV) ④感染症対策(肝炎) ⑤感染症対策(HTLV－1)

2025年度に重点的に取り組んだがん対策

・ 院内でのC型肝炎抗体陽性者のスクリーニング

2026年度に重点的に取り組む予定のがん対策

・ **LBC（液状化細胞診）機器導入により、ほとんどすべての臓器や検体に応用出来ることで、従来法と併用した作製となり、細胞診断精度向上が見込まれる**

2.がん検診

①科学的根拠に基づくがん検診の実施について ②がん検診の精度管理等について ③受診率対策について

2025年度に重点的に取り組んだがん対策

・ 内視鏡検査による胃がん検診数の増加と内視鏡検査結果のWチェックによる精度管理

2026年度に重点的に取り組む予定のがん対策

・ **LBC（液状化細胞診）機器導入により、健診も含めた婦人科領域のHPV検査ヘラインが確立され、HPV検査数の増加および細胞診断精度の向上につながる**

3.がん医療提供体制

①医療提供全般 ②病理診断 ③がんゲノム医療 ④手術療法 ⑤放射線療法 ⑥薬物療法 ⑦チーム医療の推進 ⑧医療実装

2025年度に重点的に取り組んだがん対策

- ・ ロボット支援下手術対象がん腫の適応拡大、膵臓センター開設
- ・ がんゲノム医療連携病院指定に向けて院内体制の整備・強化、遺伝カウンセリング外来・遺伝学的検査体制整備
- ・ 病理検査室の適切な人員配置と体制の維持・強化、将来精度管理（ISO 15189：2022）取得に向けての取り組み準備
- ・ 低栄養患者に対する栄養サポートチームとの連携
- ・ 周術期管理（口腔外科・栄養等）の強化
- ・ がん薬物療法体制加算の取得に向けた体制作り
- ・ 新機器導入（True Beam）に伴い高精度なIMRT・定位放射線治療件数増数を図る

（ExacTrac）導入による完全マーカーレス位置照合

・ 体表面照合システム

2026年度に重点的に取り組む予定のがん対策

- ・がんゲノム医療連携病院申請と取得、院内および南部医療圏の医療機関とのがんゲノム医療連携体制の拡充 6/1～がんゲノム医療連携病院指定、運用開始
 - ・遺伝性腫瘍・ゲノム診療の院内周知、相談支援体制の拡充、院外への広報活動
 - ・がんゲノム医療連携病院取得に向けて、病理検査室の環境整備
 - ・ True Beam、HALCYON2台稼働による治療体制の強化、患者数の拡大を図る
 - ・ 予定手術患者への術前栄養評価を強化するために運用体制の構築
 - ・ 病理医が2名になること
- で、ダブルチェックが必須となり、病理診断の向上が確立する

4.緩和・支持療法

①緩和ケア ②在宅療法 ③リハビリテーション ④支持療法 ⑤妊孕性温存療法

2025年度に重点的に取り組んだがん対策

- ・妊孕性温存療法の情報提供・連携の強化
- ・DXを利用した有害事象（irAE/CRS等）の自己管理に向けた整備
- ・緩和ケア診療の一貫として個別栄養食事管理の実施
- ・院内職員向け緩和ケア講習会年1～3回実施
- ・入院時 入院後に毎日の痛みスクリーニング実施と対応
- ・オピオイド使用患者の抽出（毎週）と適切な服薬指導の実施
- ・緩和ケアチームカンファレンスへの参加によるリハビリ-他職種との連携
- ・がんリハ研修会への参加により、対応できるスタッフ(PT・OT・ST)の充実

2026年度に重点的に取り組む予定のがん対策

- ・妊孕性温存療法の情報提供・連携の強化
- ・苦痛のスクリーニングを確実に実施、電子カルテシステムなどを活用しタイムリーに介入できる。医療情報部門などと連携しスクリーニング対象者を電カルシステムでピックアップする取り組み中
- ・早期から介入が必要な対象をスクリーニングするために病棟および外来ラウンド行い情報の集約を行い、入院・外来と切れ目ない緩和ケア提供体制を整備。苦痛のスクリーニング陽性の対象部署へ情報提供、早期介入検討
- ・緩和ケアに関する研修を開催する（2回/年）今年度はACP（琉大知念医師）、高齢者がん患者の支援（鳥取大学津端医師）の研修を計画

5.個別のがん対策

①希少がん ②難治性がん ③小児がん ④AYA世代のがん ⑤高齢者のがん ⑥離島・へき地

2025年度に重点的に取り組んだがん対策

- ・高齢者総合機能評価に基づくがん医療提供のための院内体制整備（共通ツールによる評価と連携体制の強化）
- ・高齢者のがん患者に対する積極的な訪問診療や訪問看護等の在宅医療の導入

2026年度に重点的に取り組む予定のがん対策

6.共生

①相談支援 ②情報提供 ③デジタル化 ④就労支援(医療機関側) ⑤就労支援(職場側) ⑥アピアランスケア
⑦自殺対策 ⑧がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭

2025年度に重点的に取り組んだがん対策

- ・ 転院先や在宅医療に対する栄養に関連する情報提供の実施
- ・ 転居などに伴いがん治療が継続できる県外の通院先の案内及び受診調整
- ・ 対面相談、電話相談、オンライン相談など、相談者の希望に合わせた相談対応の継続
- ・ 患者家族へ情報が行き渡り、相談窓口につながるような院内職員への広報と周知によるスムーズな連携の強化
- ・ 新病院転移後の患者サロン、患者会活動の支援による継続開催のための院内外との連携強化

2026年度に重点的に取り組む予定のがん対策

- ・ 対面相談、電話相談、オンライン相談などの相談対応の継続
- ・ 院内職員への広報と周知
- ・ 診断から治療開始前までにがん相談支援センターを案内するシステム、マニュアル整備

7.基盤

①研究の推進 ②人材育成の強化 ③がん教育及びがんに関する知識の普及啓発 ④がん登録の利活用の推進
⑤患者・市民参画の推進

2025年度に重点的に取り組んだがん対策

- ・ 院内外の患者や地域の相談に対応出来るがん専門相談員の育成
- ・ がんフォーラム（①市民対象：がん医療に関すること、②企業・事業所対象：就労・両立支援）の継続開催
- ・ 多発性骨髄腫患者会 定期開催・運営の支援

2026年度に重点的に取り組む予定のがん対策

- ・ がんフォーラム（①市民対象：がん医療に関すること、②企業・事業所対象：就労・両立支援）継続開催と参加者増加に向けた広報
 - ・ 患者サロン、多発性骨髄腫患者会の継続開催・運営の支援 2026年度より患者サロンの開催時間延長 ・ 当院の痔ぞうWG
- 主体の活動を市民や県民へ大きくPRする